

スマートフォンを活用した船内生活に関する調査結果

船員の生活記録

調査期間: 令和元年6月27日(木)~9月末日

調査方法: 内航船員の方々が各自で保有するスマートフォンから調査用Webサイトにアクセスし、船内の生活情報を入力して頂く方法

調査項目:

- A) 船員情報: 年齢、性別、職種
- B) 船舶情報: 船舶名(任意)、トン数、船種
- C) 船内活動情報: 活動(作業)種別ごとの開始時刻、終了時刻

調査体制: 民間のシステム事業者よりWebサイトの提供を受け、実施

周知方法: プレス発表
国交省ツイッター、
地方運輸局等における雇入届出の際に窓口にてパンフレット配布



生活記録の入力 

2019年07月07日(日)

※開始時間

 2019/07/07  00:00

※終了時間

 2019/07/07  01:00

※活動種別

スタンバイ

※自由コメント

登録 キャンセル

調査結果

1. 船内活動情報の回答状況

WEB登録者: 94人

24時間以上の船内活動の回答があった者: 31人

2週間以上の連続した船内活動の回答があった者: 9人

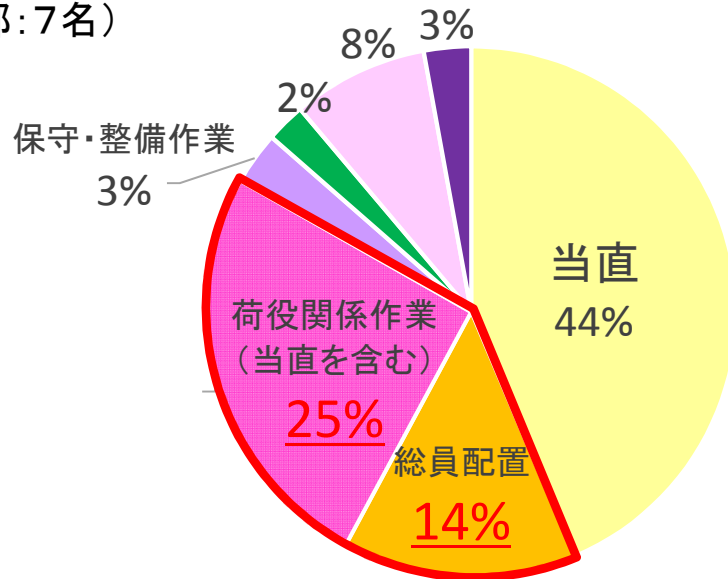
2. 2週間以上の連続した船内活動の回答があった9人の労働時間の内訳は以下の通り。

- 甲板部の作業は、当直は44%に留まり、総員配置が14%、荷役関係作業が25%を占める。
- 機関部の作業は、保守・整備(28%)と当直(19%)で約5割、総員配置(27%)と荷役関係作業(21%)で約5割となっている。

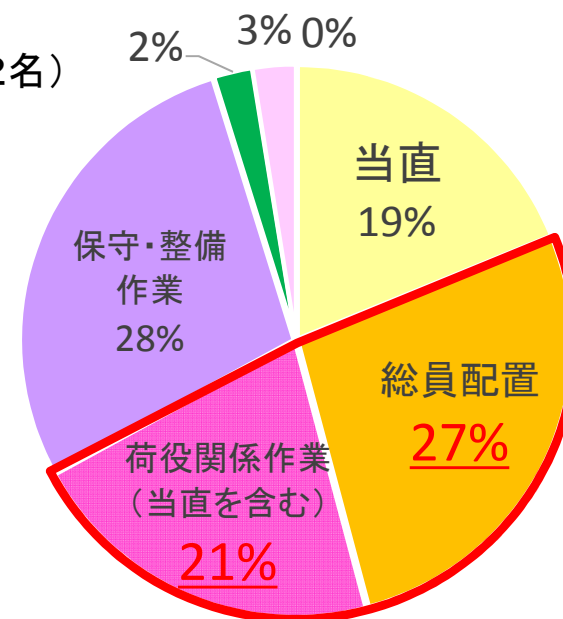
※労働時間の項目の割合は、9人の総労働時間数に占める各作業の時間数の割合である。

【部門別の労働時間の項目の内訳】

(甲板部: 7名)



(機関部: 2名)



■ 当直 ■ 総員配置 ■ 荷役関係作業 (当直を含む) ■ 保守・整備作業 ■ 調理 (食料調達を含む) ■ その他の業務 (事務作業他) ■ その他

3. 2週間以上の連続した船内活動の回答があった者(9名)について労働時間が長い週と短い週について比較分析。

(注)一つの項目で24時間以上の時間が登録されているなど、特異な内容が記入された日等を除く。

調査結果に関する留意事項

- 船内活動の回答について、記入者の活動内容をそれぞれ、どの活動種別に区分するかについては、記入者本人の判断に委ねている。

- また、回答の中には、以下のようなケースが含まれ得る。
 - 休息に充てた時間について内訳(休息(船内)、休息(陸上)、就寝や食事等)を示さず、「休息(船内)」や「休息(陸上)」、「就寝」としてひとまとめにして回答されている場合。

 - 「荷役」や「総員配置」、「休息(船内)」等の前後の時間には、悪天候やその他のやむを得ない理由による運航スケジュールの変更に伴う、待機の時間等が含まれている場合。

 - 居住区の清掃や片付け、手待ち時間など、選択肢が明示されていなかった活動内容について、記入者によってまちまちな活動種別で回答されている可能性。

 - 登録後のデータ更新・訂正は仕様上行えないため、誤回答が登録されている場合。 等

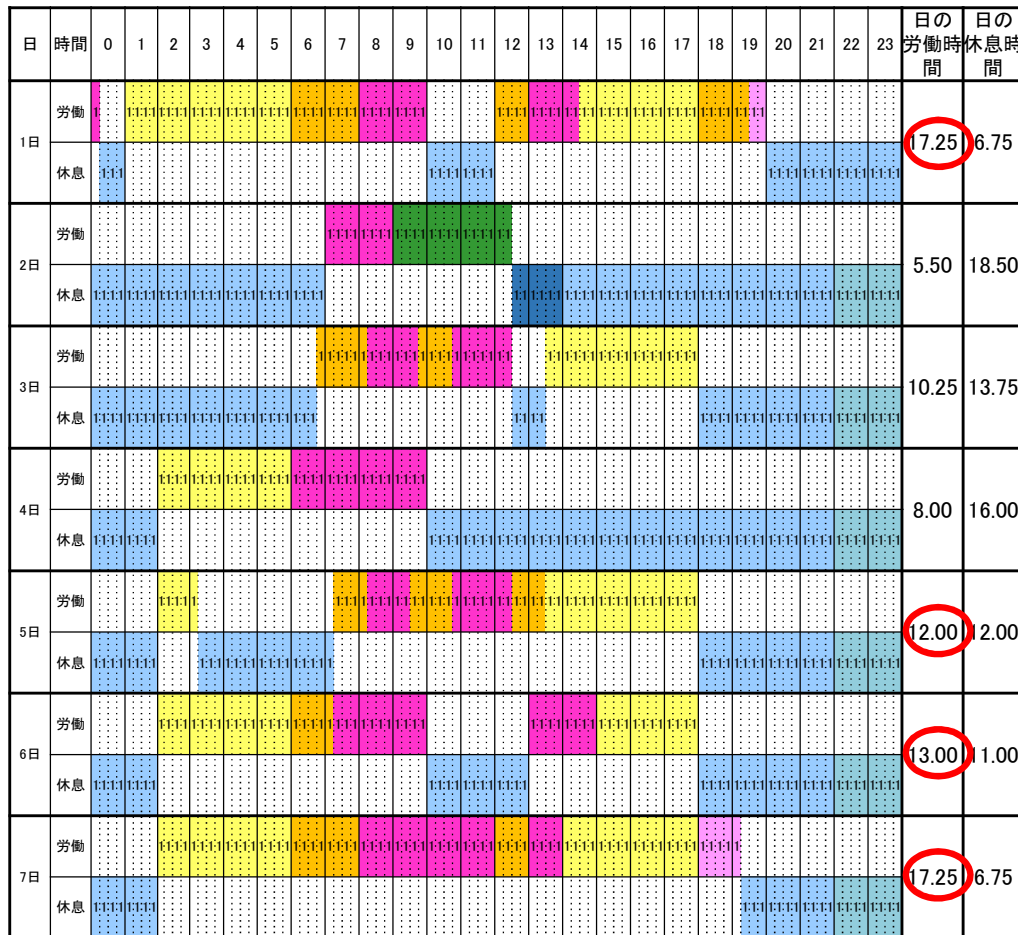
- 本調査は、記入内容を監査や行政指導の根拠としないことを前提として記入頂いたもの。

貨物船(500~749t)一等航海士:1週間の船内生活の例

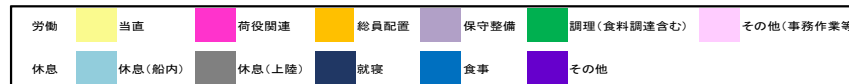
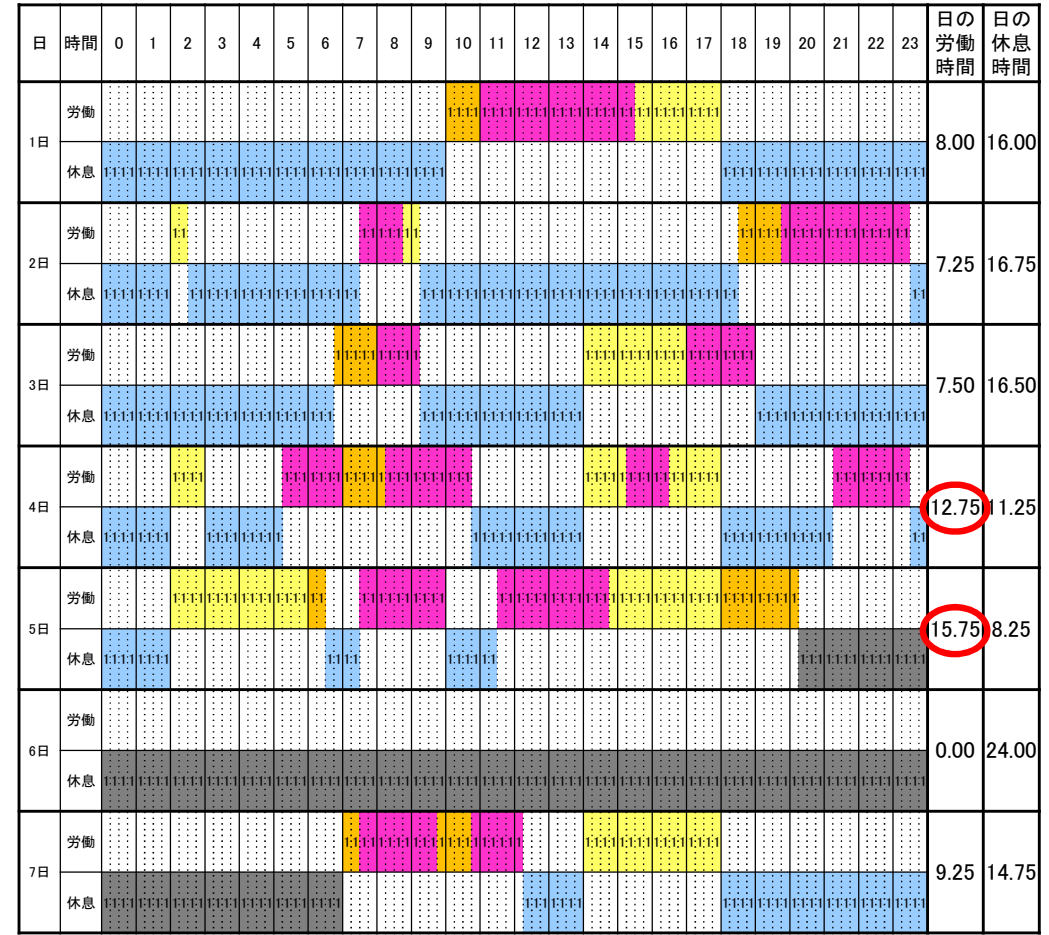
●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 荷役の高頻度が高く、「運航(当直)→入港→荷役→出港→運航(当直)」が連続して行われることで、長時間労働が発生している。
- 「2時-6時」の当直シフトで、深夜から夕方までの長時間連続労働が生じている。
- 仮バースが確保されることで、1週間あたりの労働時間が、上限である72時間の範囲内におさまっている。

●労働時間が長い例 週の労働時間計 83.25



○労働時間が短い例 週の労働時間計 60.5

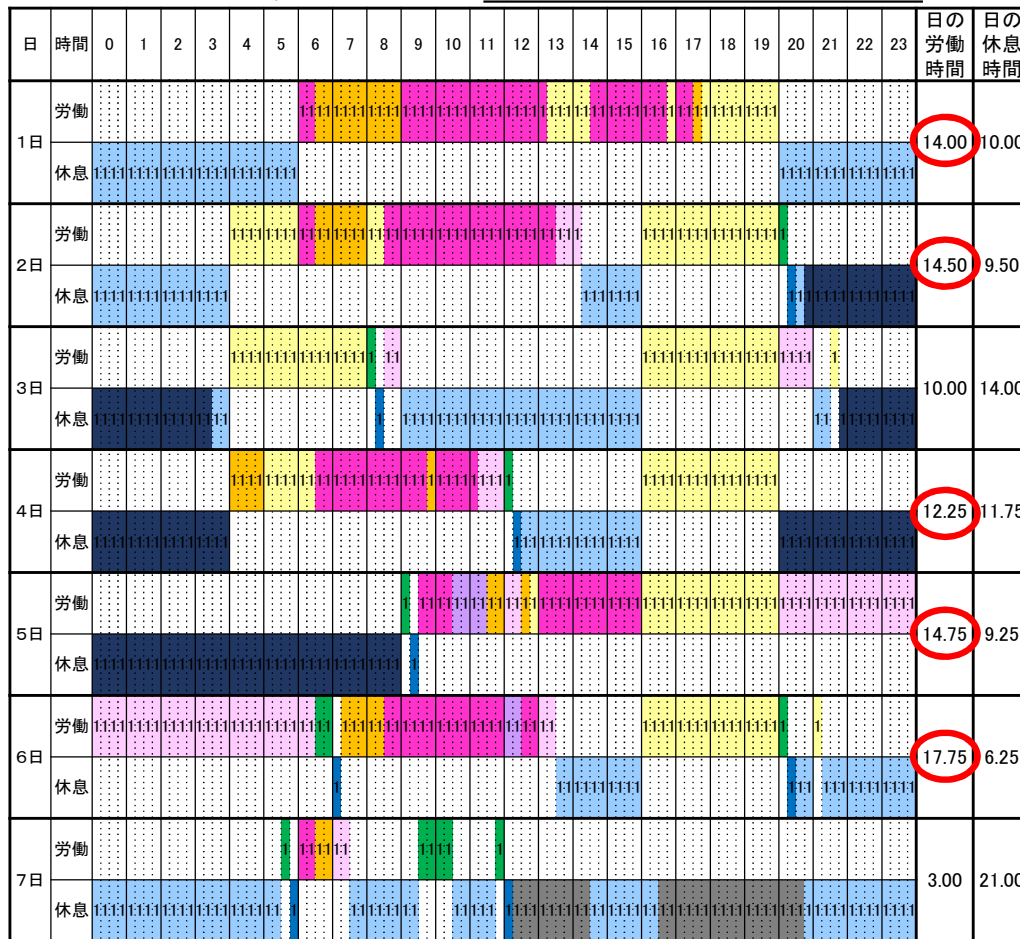


貨物船(500~749t) 一等航海士:1週間の船内生活の例

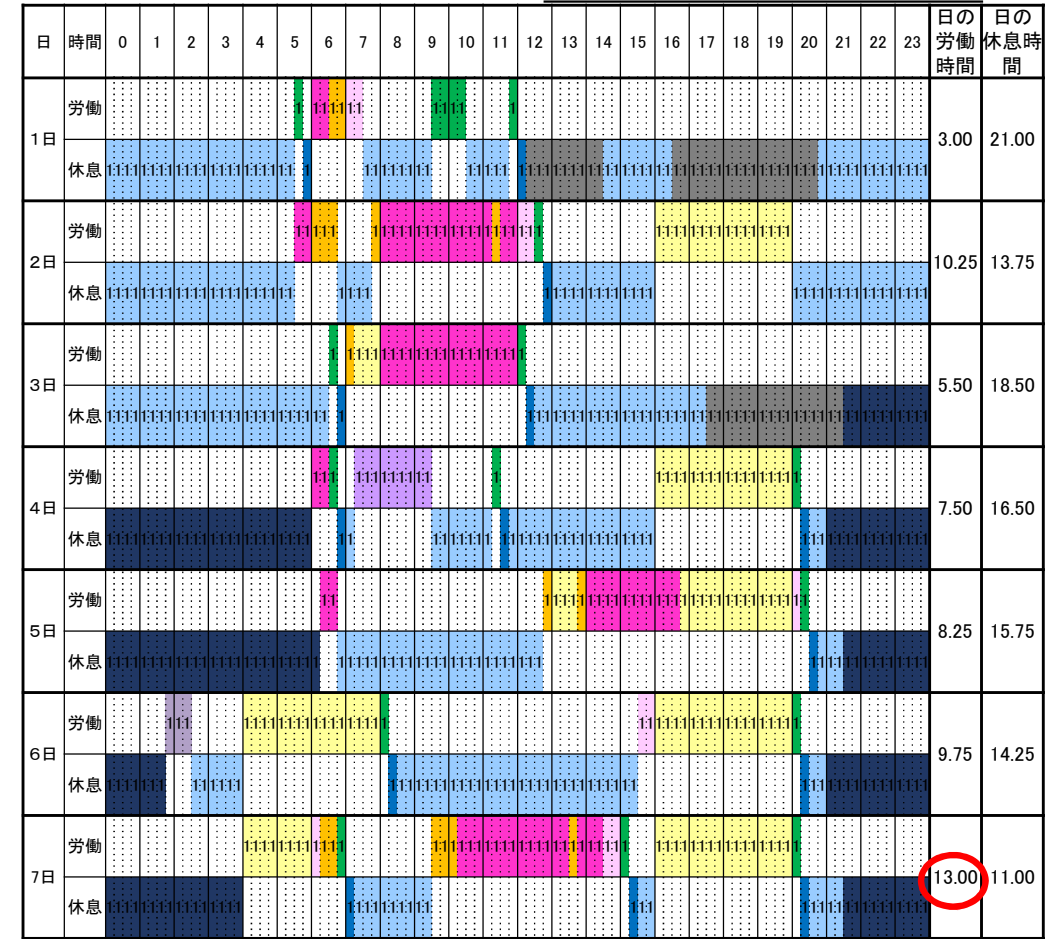
●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 荷役の頻度が高く、また、1回あたりの荷役時間も長い。
- 「運航(当直)→入港→荷役→出港→運航(当直)」が連続して行われることで、長時間労働が発生している。
- 「4時-8時」の当直シフトで、明け方から夜までの長時間連続労働が生じている。
- 1回あたりの荷役時間が短く、船の移動も比較的少ない(当直時間の長さが比較的短い)。

●労働時間が長い例 週の労働時間計 86.25



○労働時間が短い例 週の労働時間計 57.25



貨物船(200~499t) 一等航海士以外の航海士: 1週間の船内生活の例

●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 荷役の頻度が高く、また、1回あたりの荷役時間も長い。
- 「0時-4時」の当直シフトで、深夜から夕方にかけて長時間連続労働が生じており、睡眠時間も細切れになっている。
- 荷役回数が少なく(沖待ちが含まれている可能性あり)、仮バースも確保されている。

●労働時間が長い例

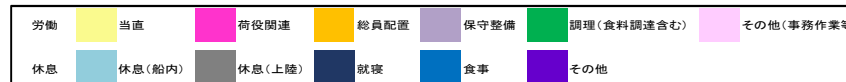
週の労働時間計 76

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休息時間
1日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	12.25	1.75
	休息																										
2日	労働																									9.75	14.25
	休息																										
3日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	13.00	1.00
	休息																										
4日	労働																									9.25	14.75
	休息																										
5日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.75	2.25
	休息																										
6日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.75	2.25
	休息																										
7日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8.25	15.75
	休息																										

○労働時間が短い例

週の労働時間計 47

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休息時間
1日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	4.00	20.00
	休息																										
2日	労働																									0.00	24.00
	休息																										
3日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	9.00	15.00
	休息																										
4日	労働																									9.00	15.00
	休息																										
5日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8.00	16.00
	休息																										
6日	労働																									9.00	15.00
	休息																										
7日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8.00	16.00
	休息																										



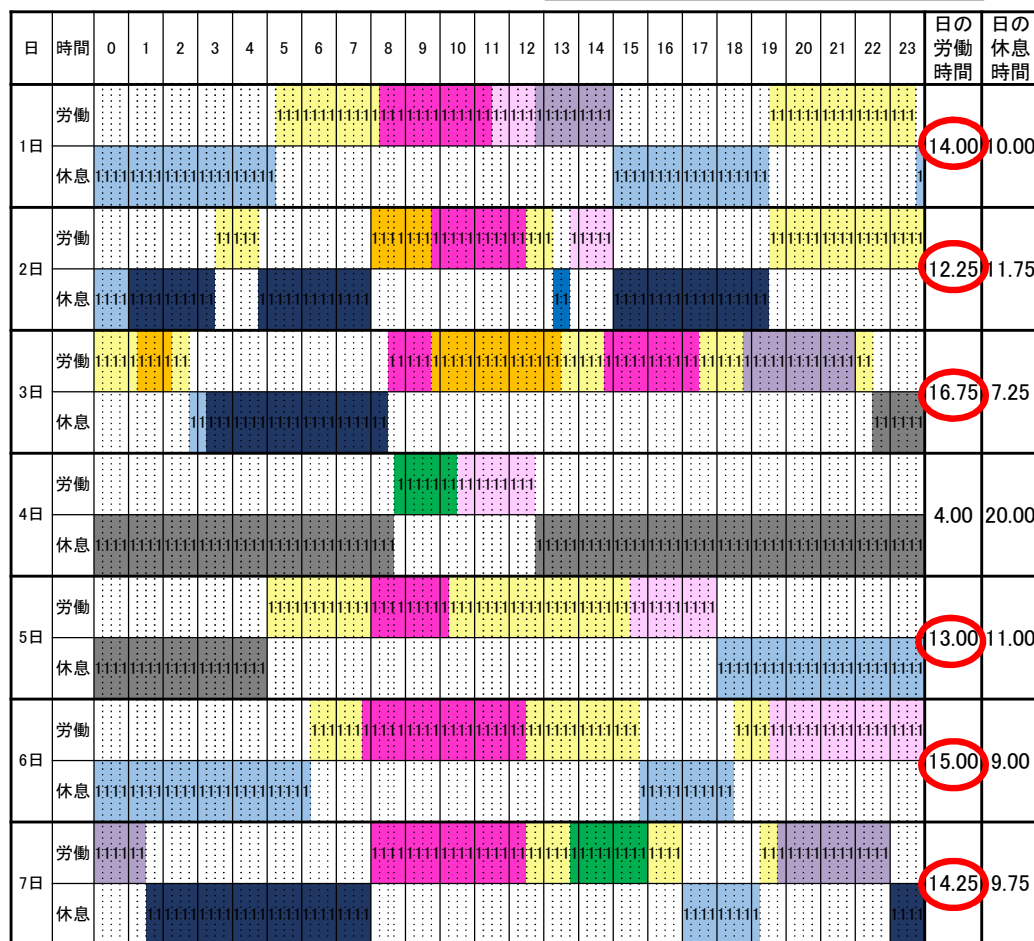
タンカー船(500~749t) 船長:1週間の船内生活の例

●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 仮バースはあるものの、「運航(当直)→入港→荷役→出港→運航(当直)」が連続して行われることで、長時間労働が発生している。
- 船長であるためか、当直をはじめとする労働時間が不規則であり、作業の種類も多い。
- 長時間労働が発生しても、仮バースを週に2回確保し、総労働時間を72時間以内におさめている。

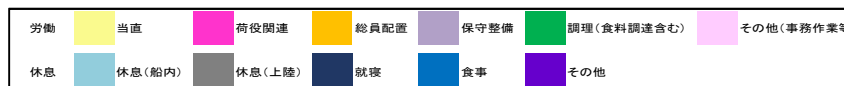
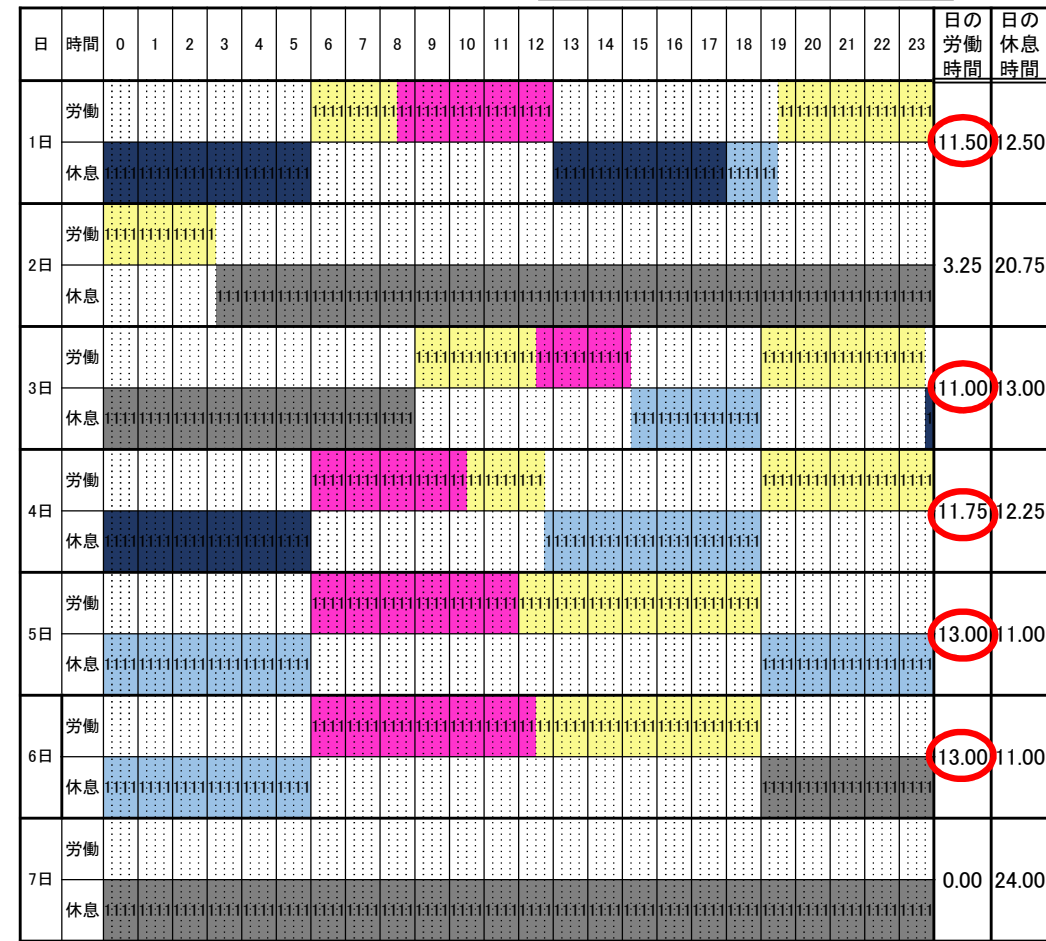
●労働時間が長い例

週の労働時間計 89.25



○労働時間が短い例

週の労働時間計 63.5

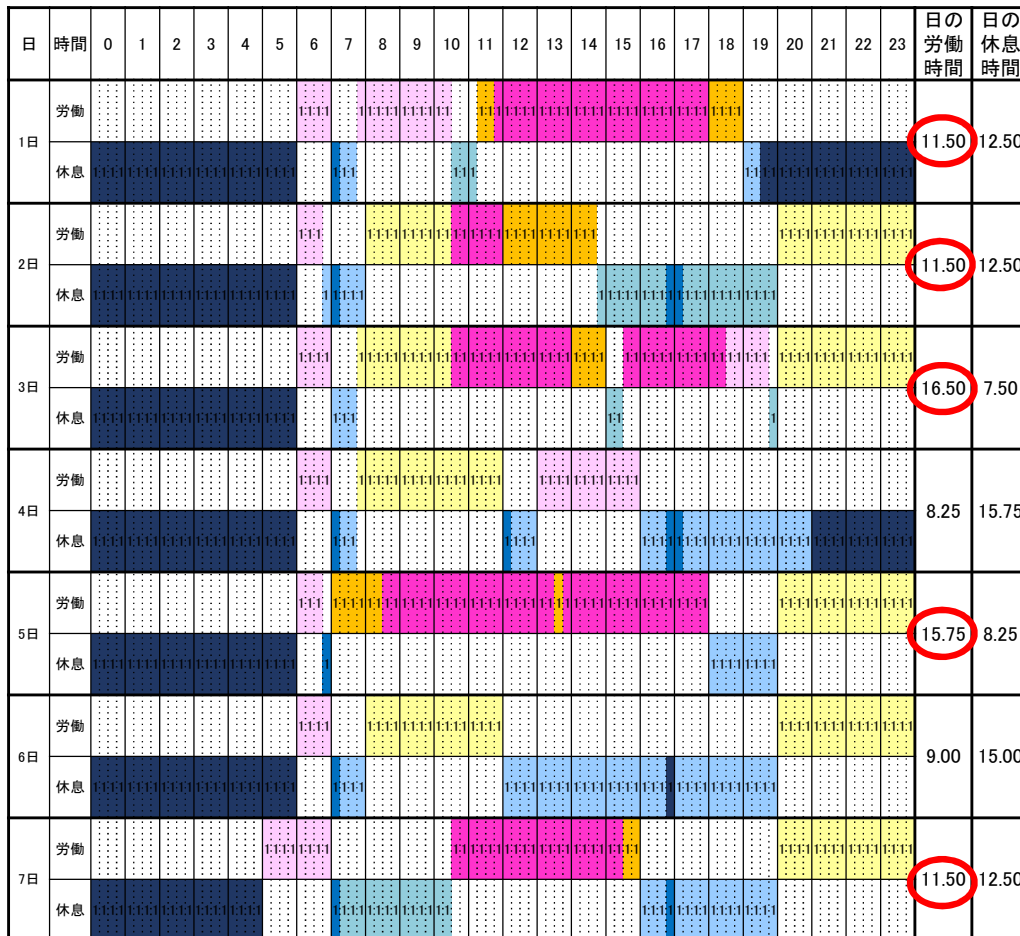


タンカー船(500~749t) 甲板部員:1週間の船内生活の例

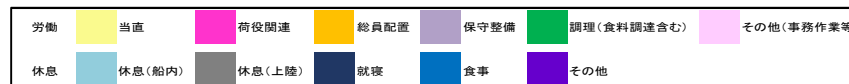
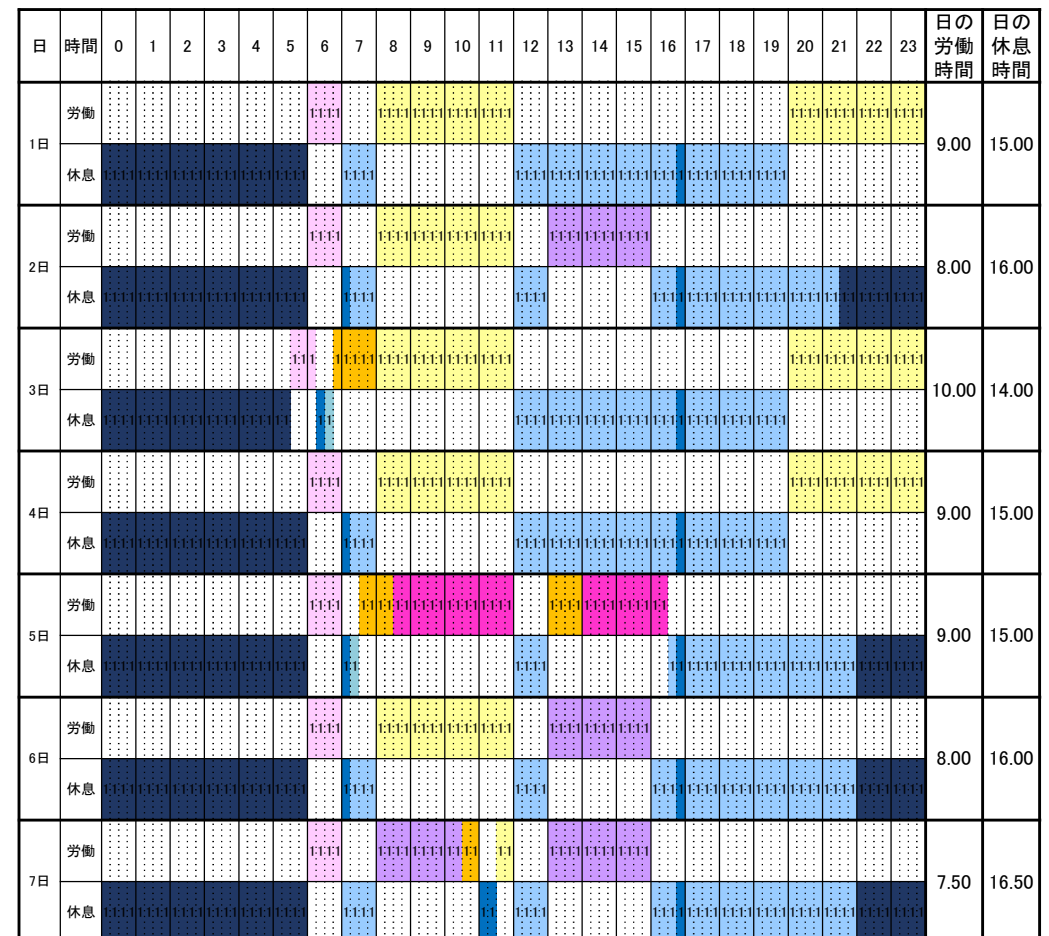
●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 荷役の頻度が高く、また、1回あたりの荷役時間も長い。
- 「運航(当直)→入港→荷役→出港→運航(当直)」が連続して行われることで、長時間労働が発生している。
- 荷役作業がほとんど発生しておらず、運航(当直)を基本とする比較的規則正しい労働形態となっている。

●労働時間が長い例 週の労働時間計 84



○労働時間が短い例 週の労働時間計 60.5



タンカー船(500~749t) 機関長:1週間の船内生活の例

●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 荷役の頻度が高いが、機関長であるためか、当直や保守整備に係る作業への関与が少なく、総労働時間はそれほど長くなっていない。
- 荷役作業への関与回数も少なく、機関長であるためか、当直や保守整備のシフトにも入っていない。(機関の状態確認、他の船員への指示が中心と考えられる)。

●労働時間が長い例

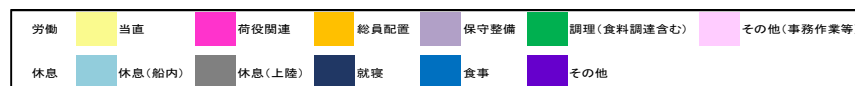
週の労働時間計 60

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休息時間	
1日	労働																									12.50	1.50	
	休息																											
2日	労働																									9.75	14.25	
	休息																											
3日	労働																									8.50	15.50	
	休息																											
4日	労働																									7.50	16.50	
	休息																											
5日	労働																									5.50	18.50	
	休息																											
6日	労働																									7.00	17.00	
	休息																											
7日	労働																									9.25	14.75	
	休息																											

○労働時間が短い例

週の労働時間計 38

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休息時間	
1日	労働																									5.25	18.75	
	休息																											
2日	労働																									6.50	17.50	
	休息																											
3日	労働																									7.25	16.75	
	休息																											
4日	労働																									7.00	17.00	
	休息																											
5日	労働																									6.50	17.50	
	休息																											
6日	労働																									2.50	21.50	
	休息																											
7日	労働																									3.00	21.00	
	休息																											



RORO船(5,000t以上) 船長:1週間の船内生活の例

●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

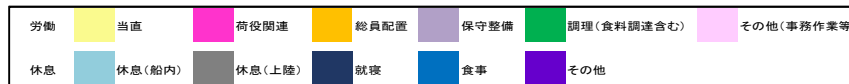
- RORO船の船長であるため、荷役作業への関与がなく、労働時間も総じて短め。
- 夜間や昼間にまとまった休息を確保出来ている。
- 他方で、事務作業等のその他業務が比較的多く発生している。
- 規則正しい時刻に出港が出来ており、総員配置も最低限の時間のみで済んでいると考えられる。

●労働時間が長い例 週の労働時間計 56.75

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休息時間
1日	労働																									7.50	16.50
	休息																										
2日	労働																									7.00	17.00
	休息																										
3日	労働																									6.75	17.25
	休息																										
4日	労働																									6.00	18.00
	休息																										
5日	労働																									9.00	15.00
	休息																										
6日	労働																									6.00	18.00
	休息																										
7日	労働																									14.50	9.50
	休息																										

○労働時間が短い例 週の労働時間計 35.5

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休息時間
1日	労働																									4.00	20.00
	休息																										
2日	労働																									6.00	18.00
	休息																										
3日	労働																									5.00	19.00
	休息																										
4日	労働																									6.00	18.00
	休息																										
5日	労働																									4.00	20.00
	休息																										
6日	労働																									6.50	17.50
	休息																										
7日	労働																									4.00	20.00
	休息																										



●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- 荷役の高頻度が高く、また、1回あたりの荷役時間も長い。
- 「運航(当直)→入港→荷役→出港→運航(当直)」が連続して行われることで、長時間労働が発生している。
- 「0時-4時」の当直シフトで、睡眠時間が細切れになっている。
- 1日の当直回数が概ね1回のみであるため、総労働時間が比較的短くなっている。

●労働時間が長い例 週の労働時間計 80.5

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休憩時間
1日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	13.25	10.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
2日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	14.25	9.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
3日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.50	12.50
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
4日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.00	13.00
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
5日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	10.00	14.00
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
6日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	9.25	14.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
7日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.25	12.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

○労働時間が短い例 週の労働時間計 64

日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日の労働時間	日の休憩時間
1日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	9.25	14.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
2日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.25	12.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
3日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8.00	16.00
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
4日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	10.75	13.25
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
5日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	7.25	16.75
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
6日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	9.00	15.00
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
7日	労働	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8.50	15.50
	休息	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

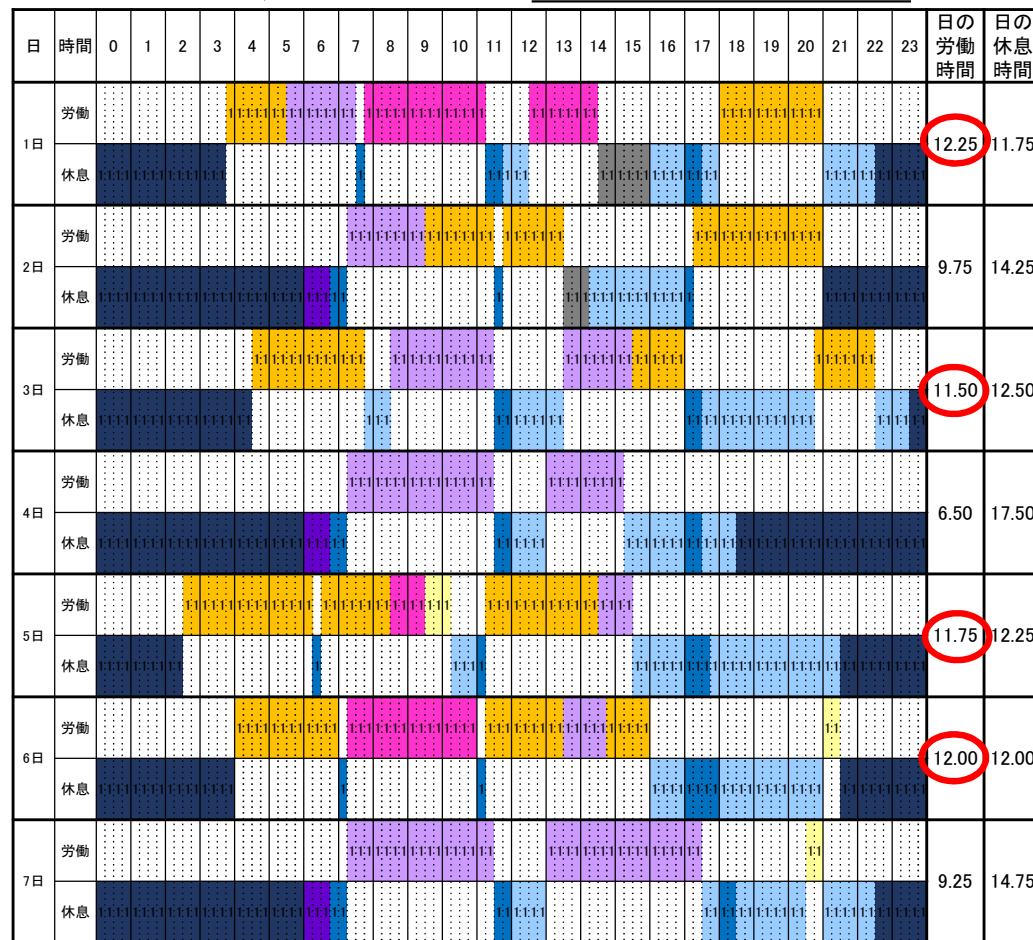
労働	当直	荷役関連	総員配置	保守整備	調理(食料調達含む)	その他(事務作業等)
休息	休息(船内)	休息(上陸)	就寝	食事	その他	

RORO船(750~999t) 機関部員:1週間の船内生活の例

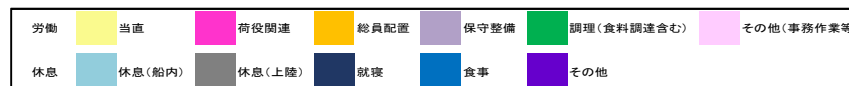
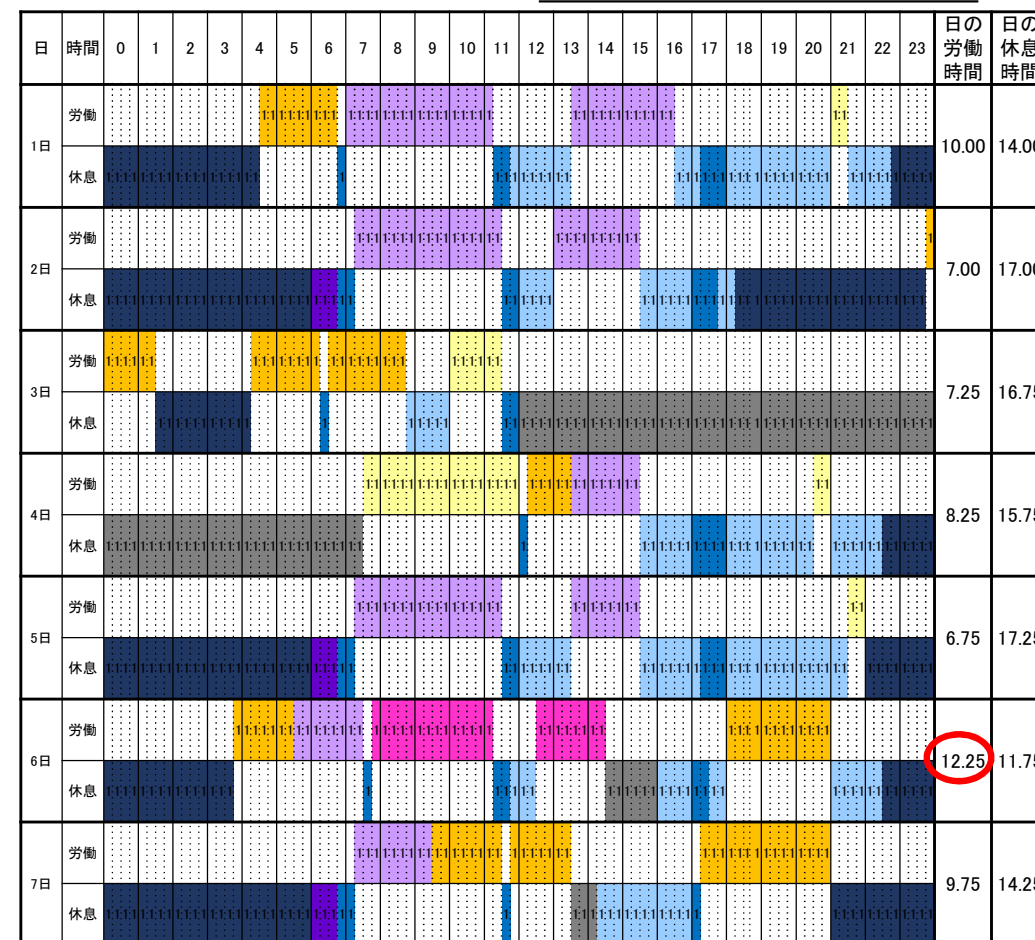
●労働時間が長い週に見られる傾向 ○労働時間が短い週に見られる傾向

- いわゆるMO(ゼロ)船と考えられ、機関部員であるため、夜間にまとまった休息を確保出来ている。作業の中心は出入港に係る総員配置と保守整備であり、労働時間も総じて短め。
- 他方、荷役作業に関与する日は1日あたりの労働時間が長くなる傾向にある。
- 仮バースが確保されており、出入港に係る総員配置の回数も少ない。

●労働時間が長い例 週の労働時間計 73



○労働時間が短い例 週の労働時間計 61.25



船員の生活実態調査の分析結果①

(※)2週間以上の連続した船内活動の回答があった9名の回答結果から導き出された分析結果であることに、留意が必要。

- ✓ 全体を通じて、労働時間の長さは「荷役」のあり方と深く関係することがわかった。荷役の頻度が高い場合や、1回あたりの荷役時間が長い場合は、押し並べて労働時間が長時間に及んでいる。
- ✓ 中でも、「運航(当直)→入港→荷役→出港→運航(当直)」という、荷物の運送のために行われる一連の作業が連続して行われる場合には、1日あたりの労働時間が上限である14時間を超過することもあるなど、特に労働時間が長時間に及ぶ要因となっている。
- ✓ 仮バース(一定時間連続した着岸、上陸)が週に1回程度確保されている場合には、1週間あたりの労働時間が、上限である72時間の範囲内におさまるケースが多い。

船員の生活実態調査の分析結果②

- ✓ 休息時間については、基準上「2分割された休息時間のうち、一方は6時間以上であること」と規定されているが、今回の調査の中では、「6時間以上」はおおむね確保されている。
- ✓ 朝方に入港し、直ちに荷役が行われるケースが一般的であるため、「0時－4時」、「2時－6時」、「4時－8時」等の当直シフトに入る船員については、早朝からの夕方までの連続労働や細切れ睡眠など、厳しい環境下にあることに特に留意が必要である。
- ✓ 労働時間の長さだけを見ると、全体的に、甲板部より機関部の方が労働時間が短い傾向にある。（荷役作業への関わり方や当直体制の時間の違いによるものと考えられる。）
- ✓ 当直や荷役等の定型的な業務以外の活動（「その他」で回答されたもの）には、仮眠や入浴の他に、居住区の清掃や片付け、会議、研修などがあつた。（→労働時間か否かの整理が必要）

- オペレーターが土日をおやすみするため、金曜日中に、月曜日までの船側の予定を詰め込むなど、荷役やオペレーターの働き方改革のしわ寄せが船側に及んでいる。
- 積荷が終わったら、直ぐに出航させられるなど、1日当たりの労働時間が長時間に及ぶことが頻繁にあり、作業と睡眠は空いた時間に行う必要がある。細切れ睡眠では、寝た気になれない。
- タンカー船の場合、荷役全員参加で休めない。天候が悪くても外で見張り等をしなければならない。
- 暴言暴力がまだ船の世界にはある。「船員の上下関係は絶対」といった上の人へのやり方の押し付けがひどく、それを当然と考える人によるパワハラが無くならない。
- 司厨員がいなかったため、自分で調理しなくてはならない。